

# 第 1 章 NPO 法人あきた子どもネット

## ～ネットワーク団体が目指す役割～

はじめに

1980 年代ごろから都市部で、在宅で子育てをしている母親たちを中心にした育児サークルが  
できはじめ、その活動は各地に広がり、徐々に活発になってきた。1990 年代にはいると、在宅  
での子育ての困難さがクローズ・アップされ、行政によるそこへの支援の必要性が訴えられる  
ようになった。2000 年頃からは、「地域ぐるみの子育て」というスローガンのもと、特定の地  
域内を対象とした子育て支援活動に関わる団体・グループ、ボランティアが増えてきている。  
今、課題となってきたのが、数多く存在しているこうした団体・グループ、ボランティア  
を、育児サークルを含めて互いにつなぐことである。そして、そのつながりをもとに、地域に  
おける子ども・子育ての環境を包括的に考え、行動していくことである。

NPO 法人「あきた子どもネット」(以下「子どもネット」と表記)もそのような課題に応え  
ようとしている団体のひとつである。「子どもネット」は、2005 年に発足した、秋田市内の子  
ども・子育てに関わる様々な分野の団体・グループ、ボランティア等が集っているネットワー  
ク団体である。本格的に動き出したのが 2006 年 2 月であるため、活動や運営体制はまだ整っ  
ていない。しかし、ここで注目すべきは、「子どもネット」が目指そうとしているネットワー  
ク団体としての役割である。後ほど詳述するが、具体的に言えば、団体・グループ、ボラン  
ティアの情報の窓口であり、事業内容に合わせ、その事業を担当する団体・グループをコー  
ディネートする役割と言える。「子どもネット」がどのような経緯で各団体・グループを結  
びつけ、ネットワーク団体として上記のような役割をどのように担おうとしているのか。以下  
では、このことを見ていくことにする。

なお、「あきた子どもネット」には、2006 年 9 月 13 日に秋田市寺内地区コミュニティセン  
ターにて聞き取り調査を行った。お話を伺ったのは、代表の後藤節子さんの他、「子ども  
ネット」参加団体である「will こねっと」<sup>1)</sup>の佐藤(代表)さんと本田さんである。

### 1. 在宅子育てへの支援に関する秋田市の状況

「子どもネット」の発足動機と活動内容の背景には、秋田市内の子育て支援状況がある。  
そこで、まずは秋田市内の子育て支援状況について触れておきたい。

秋田市では、ここ十数年の間で、在宅で子育てをしている保護者に対する支援が広がって  
いる。秋田市の就学前児童 15,883 人のうち(2006 年 5 月 1 日現在)主に在宅で子育てされて  
いる子どもは 0～2 歳児では約 7 割である<sup>2)</sup>。ただし、在宅での子育ては 3 歳児では約 2 割  
まで減っており、4 歳以上の子どもは保育所または幼稚園に通っている。つまり、在宅  
での子育てに対する支援は、主に 0 歳～2 歳児の子どもとその親に対して行われている  
と言える。

その支援は、以下の 4 つにまとめることができる。第一は、育児サークルの存在である。「  
秋田市子ども未来センター」(以下「子ども未来センター」と表記)の登録によると、  
秋田市には 36 の育児サークルがある<sup>3)</sup>。こうしたサークルは 1990 年にはほとんど存在  
していなかったという。それが 1992 年頃から徐々に結成され、現在では既に 10 年  
以上活動しているサークルも多く見られる。つまり、現在では育児サークルの存在  
が子育てをしている親(特に母親)たちにかかなり浸透しており、自らの子育て  
において大きな支えになっていると言えよう。付言すれ

ば、こうした育児サークルを経験した母親たちが自らの子育てを越えて、引き続き子育て支援活動に参加するケースも出てきている。また、中には、子育て支援団体をつくり、育児サークルの支援を実施することもある。

第二には、市内各所で、子育て中の親とその子どもが集い、交流できる場を提供している「親子のつどい」である。この「親子のつどい」は公民館や児童館、地区コミュニティセンターなどで、民生児童委員や保健推進委員、婦人会などの地域のボランティアによって運営されている。秋田市内では 1996 年頃から徐々に行われはじめ、2005 年 7 月現在、37 箇所で開催されている<sup>4)</sup>。ちなみに、「親子のつどい」のほとんどは、民生児童委員協議会の主催である。

第三は、行政による支援である「子ども未来センター」と「在宅子育てサポート事業」である。「子ども未来センター」は、2004 年 7 月に秋田市が開所した総合子育て支援センターであり、秋田市内の子育てに関する総合窓口としての機能を持つものである<sup>5)</sup>。「在宅子育てサポート事業」は、対象となる子ども 1 人につき 1 セットのクーポン券が渡され、そのクーポン券を使って「遠足プラン」「一時保育プラン」「絵本引き換えプラン」の 3 つを利用できるというものである。このうち「遠足プラン」は 4 つの NPO 法人に委託されている<sup>6)</sup>。「一時保育プラン」は、認可保育所及び認定保育施設の他に、託児グループや NPO 法人が協力している。

この他、人形劇や昔語り、おはなし会など、就学前の子どもや小学生の文化体験を広げる活動をしているグループも見られる。ここから、秋田市には、行政の他に、子ども・子育てに関わる団体・グループが多く存在していることがわかっていく。ただこれまで、こうした団体・グループはそれぞれで独自に活動してきており、お互いに協働したり、情報交換したりする機会が少なかったという。この課題に対して立ち上がったのが「子どもネット」である。「子どもネット」の発足動機は、子ども・子育てに関わる団体・グループが互いにつながり、互いの持つ資源を活用し合うことで、今以上に幅広い活動を行えるようにすることにあつたのである。

## 2. 「子どもネット」の設立

### (1) ネットワーク団体を設立した理由

「子どもネット」は 2005 年に立ち上げられ、2006 年 2 月から活動を始めている。活動を始めてからまだ 1 年程度の団体である<sup>7)</sup>。「子どもネット」は、託児活動・読み聞かせ・人形劇のグループを始め、スポーツや音楽活動（童謡・民謡）グループ、織物などの創作グループ、障害者支援団体、主任児童委員など、様々な分野で活動している団体・グループ、個人が集まってできた団体である。そのため、「子どもネット」では、「次世代を担う子どもたちの健やかな成長を育む全ての人々が必要とする情報の提供やサポート事業、より幅広い活動をすべく子育て支援のネットワーク推進に関わる事業を行うこと」を目的にしている。

「子どもネット」は代表の後藤さんの思いからつくられたものである。そして、後藤さんの思いに賛同する 5 つの団体・グループが集まり、立ち上げたものである。現在は、趣旨に賛同する団体・グループ、個人が 30 ほどあるという。では、後藤さんはなぜネットワーク団体をつくりたいと思ったのだろうか。12 年前から人形劇のサークルに所属し、年 30 回ほどの公演活動を続けてきている後藤さんは、「遊学舎に勤めていなかったら、ネットワークをつくりたいとは思わなかった」と話す。つまり、「子どもネット」の設立理由は、後藤さんが 3 年半ほど勤めていた「秋田県ゆとり生活創造センター 遊学舎」<sup>8)</sup>（以下、遊学舎と表記）での職員経験に由来するのである。

遊学舎で職員をしていた際に、後藤さんは様々な団体・グループ、ボランティアと出会い、

そうした中で、次のような状況に遭遇することがよくあったという。ひとつひとつの団体・グループ等は頑張っており、良いものを持っている。しかし、それがうまく活かされていない、あるいはそれを活かす場を見つけれずにいる。その一方で、その良さをもつ団体や個人を探し求めているが、見つけれずにいる団体・グループがある。こうした状況を見聞きし、後藤さんは個々の団体・グループを結びつける必要があるのではないかと感じるようになったという。そして、「いろいろな立場の人が協力し合って、子どもに対して応援するという立場をとっていったら、前に進んでいき、いろんな意味で、子どもへの活動が活性化するのではないか」と思ったそうである。

この思いを実現するために、後藤さんは、これまでに関わりがあった5団体にまず声をかけ、集まりを設けたのである。この集まりで、ネットワークをつくることの思い、そして、行政からの委託事業を受け、参加団体が共同で実施していくために、NPO 法人格を将来的に取得することを話したという。これが「子どもネット」の発足である。

## (2) 活動概要

「子どもネット」の主な活動は、現在のところ「手作りおもちゃサロン」と「遠足プラン」である。「手作りおもちゃサロン」は、毎週火曜日の10時～12時半に県の生涯学習センターで開いている親子交流の場である。このサロンでは、「子どもネット」参加団体の「子育て支援 ぽっぼクラブ」(託児グループ)から2人、生涯学習センターのボランティア1人の3人が常時担当している。後藤さんが行くときには、4人になるという。サロンでは、手作りのおもちゃの他、折り紙や段ボールなどの材料がおいてあり、それを使って子どもたちは遊ぶことができる。手作りのおもちゃを提供する理由は、人が作ったおもちゃが置いてあるところはなかなかなく、子どもたちがそれらに触れられる機会をつくりたいという思いからである。なお、このサロンには誰でもが参加でき、おやつ代が参加費となっている。今のところ、親子5組程度の参加があるという。



写真：手作りおもちゃサロンで、折り紙の魚釣り遊ぶ子どもたち

「子どもネット」のもうひとつの活動は「遠足プラン」である。「遠足プラン」は、市の「在宅子育てサポート事業」のひとつであり、在宅で子育てしている親とその子どもがバスで日帰り遠足に行くというものである。この委託を受けて、「子どもネット」は年に16回実施される「遠足プラン」の行き先、日程などの企画、運営を行っている。市のプランでは遠足には4名の託児サポーターがつくことが決められている。しかし、「子どもネット」では、その倍以上の人数が託児サポーターとしてついており、この点を「子どもネット」の「遠足プラン」の売りとしているという。なお、この企画には「willこねっと」のメンバーが加わり、当日の託児には子育てサロンや託児などを実施している団体・グループのメンバーが参加している。



写真：遠足プランに参加した親子(ループワールド AKITAにて)

## 3. ネットワーク団体としての役割

ネットワーク団体である「子どもネット」はどのような役割が求められているのか。この点

を以下で見えていくことにする。

### (1) 情報の窓口

「子どもネット」に対して、「will こねっと」の佐藤さんと本田さんは「情報の窓口」になってほしいと期待をしている。情報窓口の役割とは、どこでどんな団体・グループ、個人がどのようなことをしているのかという情報を集約し、問い合わせに応じて必要な情報を提供していくことである。例えば、「will こねっと」が昔遊びをやりたいと考えたとき、自分たちの周りにそれをやれる人がいない場合、その遊びをできる人を探さないといけなくなる。そうしたとき、以前なら、いろいろ調べ、電話し、伝の伝をたどってようやく見つかるような状態だったという。今は、後藤さんに相談すると、人や団体など必要な情報がすぐに入手できるようになったのである。このように、それぞれの団体が独自に活動していく際に、他の人や団体などに手を借りたいことがでてくる。そのときに「子どもネット」を活用し、手を借りたい団体・グループの情報を引き出すことができる。そうした環境を整えることを「子どもネット」は期待されているのである。

では、窓口に必要な情報は、「子どもネット」にどのように集まってくるのか。

そのひとつは、後藤さんのこれまでの人脈である。その中でも、後藤さんが遊学舎で働いていた時にできた人脈に拠るものであるという。遊学舎には、子ども・子育て支援にかかわらず、様々な分野の人たちが出入りしている。後藤さんは主催講座の企画・運営や市民活動・ボランティアの相談を通じて、そうした団体・グループ等と接点を持ち、そこから情報を得てきたのである。こうしてできた後藤さんの幅広い人脈が、現在の「子どもネット」の重要な情報源となっているようである。

もうひとつは、事業計画・広報のときに収集されるものである。「遠足プラン」を実施するにあたって、後藤さんは担当ブロックにある「親子のつどい」（民生児童委員協議会主催）や育児サークルのところに足を運び、様々な情報を収集している<sup>9)</sup>。「遠足プラン」は「親子のつどい」や育児サークルをしている人たちにとって関心の高い事柄であるという。その情報を提供しつつ、後藤さんは「親子のつどい」や育児サークルをしている人たちがどのような考えを持ち、どのようにやっているのかに関する情報を得てくるのである。加えて、それにより、民生児童委員やサークルとのつながりもできるという。このように、「子どもネット」は、事業を実施する際に、それに関連する団体・グループに直接声をかけ、その団体・グループの人たちと情報交換を行っていると言えよう。そして、このことが「子どもネット」のつながりを広げているのである。

### (2) 事業の振り分け役

「子どもネット」に参加している団体は、それぞれ独自に活動しており、その目的や内容が異なっている。「子どもネット」は活動する上でこの点を大事にしている。そのため、「子どもネット」では、事業ごとに、運営に加わる団体が変わっている。このことを「will こねっと」の佐藤さんは次のように表現していた。

「『何かをやるうか』というもの。『何かな手はね』拵きて自分たち得意とするところ後藤さんがやるうとし『子ども』だ活かす。」

つまり「子どもネット」では、それぞれが自分たちの団

日程	日	日	内容	実施ブロック
6月27日	土	秋津南地区と文化のむら(伝承館)	自然観察と小石のトコロ作り	中津
6月28日	日	ハーブワールドAKITA(西館)	ミニリース作り	雄山
6月29日	月	フェリスサピア秋田(西館)	リトミックと宝探し	都内野・西ツツ子
6月30日	火	ハーブワールドAKITA(西館)	ミニリース作り	上北・雄東・雄南・雄平
7月 4日	土	ブルーノックスあきた(西館)	押し花のしおり作り	七戸
7月11日	土	フェライト子ども科挙館(仁義館)	遊具とリズム遊び	川井
7月18日	土	秋津南地区と文化のむら(伝承館)	自然観察と小石のトコロ作り	大庄
9月11日	月	フェリスサピア秋田(西館)	リトミックと宝探し	河辺・川井
-	-	-	-	川井・雄平
9月22日	月	都 野 都 野 都 野	りんご祭り・飛天神クラブトン	戸来川・大庄寺
10月 3日	土	都 野 都 野 都 野	りんご祭り・飛天神クラブトン	中津
10月10日	土	都 野 都 野 都 野	りんご祭り・飛天神クラブトン	雄山
11月 7日	土	フェライト子ども科挙館(仁義館)	遊具とリズム遊び	川井
11月14日	土	フェライト子ども科挙館(仁義館)	遊具とリズム遊び	大庄
11月18日	土	フェリスサピア秋田(西館)	リトミックと宝探し	上北・雄東・雄南・雄平
12月 4日	月	ハーブワールドAKITA(西館)	クリスマスミニリース作り	河辺・川井
-	-	-	-	川井・雄平
-	-	-	-	戸来川・大庄寺
1月22日	土	ブルーノックスあきた(西館)	押し花のしおり作り	中津

※下記のTEL・FAX・E-mailにて、それぞれの遠足開催日の一週間前まで受付します。受付後、一週間以内  
にハガキで詳細をお知らせします。定員になり次第、締切させていただきます。都合があります。  
お急ぎの場合は、上記の小学校受付となります。詳しくは受付後のハガキをご覧ください。  
※開催・お休み・お欠け・参加人数等は各事業個別にします。  
※本報誌・雑誌誌はすべて「あきた子どもネット」で変更いたします。安心して申し込み下さい。  
※あきた子どもネットは子育て支援グループが集まって出陣先導隊です。小さいお子さんも安心して参  
加できます。

申し込み・問い合わせ  
あきた子どもネット(代表 後藤)

体が得意とすることが含まれている場合には、その事業に手を貸すという形態がとられている。例えば、「遠足プラン」の企画時には、後藤さんは「will こねっと」のメンバーに声をかけ、一緒に検討している。これは、「will こねっと」のメンバーが「遠足プラン」に参加する親子に近い世代に位置するためである。その結果、「遠足プラン」の基本的な方針や具体的な行き先は佐藤さんたち自身の経験や情報をもとにしたものになっている<sup>10)</sup>。また、「ミニコンサート」の開催では、後藤さんはそれぞれの開催場所で活動している育児サークルや「親子のつどい」のグループに声をかけ、一緒に運営する形態をつくるそうである。

ところで、「子どもネット」の後藤さんには様々な依頼や事業の話が入ってくるという。そうした場合、後藤さんは「子どもネット」の参加団体に限らず、関心をもちそうな団体に声をかけている。そして、「子どもネット」がまとめ役となりながら、手を挙げたところと一緒にその事業を引き受けている。また、後藤さんが受けられない場合には、他の団体にその情報を流し、引き受け先を探すようにしているという。

このような運営形態を鑑みると、「子どもネット」の目指す役割は、「子どもネット」に入ってくる依頼（助成事業や委託事業など）の情報を参加団体に流し、事業を振り分けていくことであり、共同で事業を進めていく際にはまとめ役として事業をコーディネートすることであると言えよう。

おわりに

繰り返しになるが、「子どもネット」は発足して間もない団体である。それ故、課題は、団体の運営体制をどのように整えていくのかということである。例えば活動資金に関しては、インタビューを行った時点では会費はまだ徴収されておらず、委託金、助成金及び参加団体からの寄付金で活動が賄われているようであった。また、運営体制が整っていないためか、「子どもネット」=後藤さんというイメージがつくられてしまいかねない。今後、事業を展開していく過程で、後藤さんという個人を越えた「子どもネット」の体制を築くことが求められるのではないだろうか。また、後藤さんがもつ人脈や情報収集の力をどのように他の人に引き継いでいけるのかも課題となってくると考えられる。

とはいえ、上記で見てきたように、「子どもネット」がネットワーク団体として目指している役割はインタビューをしている時点で既に随所で見受けられた。団体・グループ等のネットワークを構築しようと考えている人や団体にとっては、「子どもネット」の目指す姿は参考になるのではないかと思われる。「子どもネット」がこうした役割を今後の活動においてどのように展開していくのか、楽しみであり、その過程に着目していきたいものである。

（渡辺恵）

<注>

- 1) 「will こねっと」は、育児サークルの連絡会に集まっていたリーダーたちが、それぞれサークルを卒業後に、育児サークルを支援するために立ち上げた団体である。現在は、子育てサロン及びフリーマーケットを実施している。「子どもネット」には、立ち上げ当初から参加しており、現在、「will こねっと」代表の佐藤さんは「子どもネット」の理事になっている。
- 2) 2004年4月1日現在。秋田市『秋田市次世代育成支援行動計画 前期計画書』「年少人口の現状 2(4)子どもの居場所」2005年3月策定、69頁
- 3) 育児サークルの登録数は、秋田市子ども未来センター『平成17年度子ども未来センター事

業実績』(15頁)の数値より。なお、「will こねっと」の代表佐藤さんの話によれば、「子ども未来センター」に登録をしていないサークルもあるということから、実際には36以上のサークルがあると思われる。

- 4) 「親子のつどい」の開催カ所数は「子ども未来センター」の登録によるもの(秋田市子ども未来センター『平成17年度子ども未来センター事業実績』17頁)。
- 5) 「子ども未来センター」の事業内容は、子育てに関する情報提供、センターの遊びの広場、地域での遊びや交流支援、子育てボランティアの育成、ファミリー・サポート事業の運営、相談などである。このセンターは市民と協働しつつ、地域で親子が孤立することがないように、関係機関と連携しながら子育ての支援をしていくことを目的としている。
- 6) 「遠足プラン」では、秋田市は市内を4つのブロックに分け、ひとつのブロックにつきひとつの団体に委託している。「子どもネット」は、南部・河辺・雄和ブロックを担当している。各小学校区につき2回開催される。ただし、利用者は住所地以外の学区にも参加できる。
- 7) ちなみに、「子どもネット」は2006年8月にNPO法人として認証を受けている。
- 8) 遊学舎は、県の生涯学習・文化施設であり、ボランティア・NPO活動や余暇・文化活動などの、様々な活動の拠点となる施設である。遊学舎では、主催講座の企画の他、ボランティア・NPO活動の支援、体験学習の受け入れなどを行っている。現在、遊学舎では、指定管理者制度が導入され、NPO法人あきたパートナーシップが管理・運営を行っている。
- 9) ちなみに、後藤さんは、情報収集に関して、「ホームページの情報だけでは、どのような考えを持っている人たちがやっているのかみえてこない」と言い、「その団体が何をやっているのかというのはその団体が活動しているところに行かないとわからない」と話していた。ただ、全ての団体をひとつひとつ覗きに行くのは困難である。それ故、お互いが知り合えるネットワークが大切であると述べている。
- 10) 遠足に参加する親子は「一緒に遊んで、楽しいという年代ではない」ことを踏まえ、親子で楽しむよりはむしろ母親が楽しむプランであり、そのためにできるだけ託児サポーターを多くするようになったのである。ちなみに、これは後藤さんも意見を同じくするものであったという。

#### <参考資料>

- ・秋田県ボランティア・NPO活動ニュース 中央地区版『かだれ』Vol.11(2006年5月)及びVol.17(2006年11月)秋田県生活環境部県民文化政策課地域活動支援室発行
- ・秋田県ゆとり生活創造センター「遊学舎」HP(アクセス日:2007年2月13日)  
: <http://www.akita-kenmin.jp/yugakusha/>
- ・秋田市『次世代育成支援行動計画 前期計画書』2005年3月策定
- ・秋田市「在宅子育てサポート事業ご利用案内」パンフレット
- ・秋田市子ども未来センター『平成17年度子ども未来センター事業実績』
- ・秋田市子ども未来センターの概要 平成18年度視察資料
- ・「will こねっと」HP(アクセス日:2007年2月13日): <http://chibikko.chu.jp/>
- ・秋田市HP(統計:人口・世帯)(アクセス日:2007年2月13日): <http://www.city.akita.akita.jp/>